



構成データのインポート

この章では、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager に構成データをインポートする方法について説明します。

[インポート/エクスポート (Import/Export)] を使用して更新できるのは、既存のエンタープライズパラメータまたはサービスパラメータだけです。インポートする .csv ファイルに IPMA に固有のテンプレートがある場合は、必ずターゲットサーバ上で IPMA ウィザードを実行してから、インポートのトランザクションに進んでください。

- [サーバーへの設定のインポート \(1 ページ\)](#)
- [循環依存関係 \(4 ページ\)](#)
- [オーバーライドのみ \(5 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード \(6 ページ\)](#)
- [インポート/エクスポートメニュー関連のトピック \(7 ページ\)](#)

サーバーへの設定のインポート

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して、Unified Communications Manager に設定データをインポートできます。



(注) BAT を使用してサービスプロファイルデータをエクスポートする場合、[ユーザー管理 (User Management)] > [ユーザー設定 (User Settings)] > [サービスプロファイル (Service Profile)] > [ディレクトリプロファイル Unified CM 管理 (Directory Profile Unified CM Administration)] インターフェイスで設定された LDAP パスワードは、暗号化された形式でエクスポートされません。Unified Communications Manager サーバーから別のサーバーにサービスプロファイルデータをインポートするには、エクスポートした .csv ファイルにプレーンテキスト形式でパスワードを手動で再入力する必要があります。これは、復号キーがサーバーごとに異なるため、同じパスワードをインポートできないためです。

認証に LDAP クレデンシャルを使用している場合は、Jabber クライアント設定 (jabber-config.xml) ファイルで設定された **DiagnosticsToolEnabled** パラメータを使用して [Cisco Jabber 診断ツール (Cisco Jabber Diagnostic Tool)] を無効にする必要があります。

エンタープライズパラメータまたはサービスパラメータを正常にインポートするためには、インポート場所で Cisco Unified Communications Manager Administration の [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] または [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウからパラメータを更新する必要があります。その場合は、インポートを実行する前に、Cisco Unified Communications Manager Administration の [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] または [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウで、何も変更せずに [保存 (Save)] をクリックしてください。



注目 [インポート/エクスポート (Import/Export)] を使用して更新できるのは、既存のエンタープライズパラメータまたはサービスパラメータだけです。データベースで一部のパラメータが欠落している場合、パラメータのインポートが失敗します。

「[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]」 オプションを使用すると、アイテムがサーバーに存在する場合はそれを更新し、存在しない場合はそれを挿入するよう BPS に指示できます。この上書き (オーバーライド) オプションを使って電話機やユーザーデバイスプロファイルをインポートするとき、IP 電話サービスは更新されず、既存のエンティティのセットに付加されるだけです。



(注) 同じ名前の複数の IP 電話サービスが存在する可能性があります。このようなサービスを区別する一意のキーが存在しないため、[インポート/エクスポート (Import or Export)] 操作でどのサービスを更新するか特定できず、代わりにサービスを付加します。

始める前に

import.csv ファイルに IPMA 固有のテンプレートが含まれている場合は、インポートトランザクションを実行する前に、ターゲットサーバー上で IPMA ウィザードを必ず実行してください。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [インポート (Import)] の順に選択します。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

(注) [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストに、アップロードされたすべての .tar ファイルが表示されます。

ステップ 3 [インポートの設定 (Import Configuration)] セクションに、.tar ファイルのすべてのコンポーネントが一覧表示されます。インポートするオプションに対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 アイテムが存在する場合はそれを更新し、存在しない場合はそれを挿入するよう BPS に指示するには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。

既存の設定をオーバーライドするかどうかは任意選択です。

(注) ファイルが変更される場合、更新中にファイル名とファイル形式を変更してはなりません。

ステップ 5 [すべて選択 (Select All)] をクリックすると、同時にすべてのオプションが選択され、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックすると、すべての選択がクリアされます。

ステップ 6 対応するラジオボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択します。

ステップ 7 選択されたデータをインポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。

ステップ 8 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

次のタスク

ジョブの実行が失敗した後、修正済みの同じ tar ファイルを実行するときに「上書き」を使用できます。



(注) Unified Communications Manager サーバーが作成される時、バックグラウンドでデータベーストリガーが起動し、これによって会議ブリッジ (CFB) やメディアターミネーションポイント (MTP) などのエンティティが自動的に作成されます。これらのエンティティには CFB_1 や MTP_1 などの名前が付けられます。

ユーザーがこの情報を TAR ファイルにエクスポートして、それを別の Unified Communications Manager サーバーにインポートすると、システムは CFB や MTP などのアイテムを作成します。新しい Unified Communications Manager サーバー上の名前は、インポート前の名前と同じになることも、異なる名前になることもあります。

関連トピック

[ログファイル](#)

[サーバへのファイルのアップロード](#)

循環依存関係

Cisco Unified Communications Manager の一部のエンティティは、別のエンティティをインポートしないと、あるエンティティをインポートできない、というように相互に依存しています。そのようなエンティティのインポート/エクスポートでは、2段階でインポートプロセスを実行します。

1. 優先順位が高いエンティティが最初にインポートされ、対応するエンティティの値は空白になります。



(注) これは、対応エンティティの値が同時に使用できないからです。

2. .tar 内のすべてのエンティティをインポートした後、インポート/エクスポートは対応するエンティティの値を使用して優先度の高いエンティティを更新し、インポートプロセスを完了します。



(注) 対応するエンティティの値は次回のサイクルで使用可能になります。

例

循環型依存関係が機能する方法を理解するために、以下の例を考えてみましょう。

デバイスプールとメディアリソースグループリスト (MRGL) : まず、デバイスプール (優先度の高いエンティティ) がインポートされ、MRGL (対応するエンティティ) の値は同時に使用できないため、空白になります。 .tar ファイル内のすべてのエンティティをインポートした後、インポート/エクスポートはデバイスプールを更新して、空白の値を MRGL の真の値で置き換え、インポートプロセスを完了します。

循環型依存関係に縛られるエンティティとして、次のものがあります。

- デバイスプールと MRGL
- デバイスプールとルートグループ
- パーティションとスケジュール
- アプリケーションユーザとユーザグループ
- ライセンス

サンプルレコード

devicepool.csv

```
DEVICE POOL NAME,CISCO UNIFIED CALLMANAGER GROUP,DATE/TIME GROUP,REGION,SRST
REFERENCE,CALLING SEARCH SPACE FOR AUTO-REGISTRATION,AAR CALLING SEARCH SPACE,DEVICE
```

MOBILITY CALLING SEARCH SPACE, MEDIA RESOURCE GROUP LIST, LOCATION, NETWORK LOCALE, CONNECTION MONITOR DURATION, DEVICE MOBILITY GROUP, AAR GROUP, REVERTED CALL FOCUS PRIORITY, LOCAL ROUTE GROUP, CALLING PARTY TRANSFORMATION CSS, CALLED PARTY TRANSFORMATION CSS, INCOMING CALLING PARTY NATIONAL NUMBER PREFIX, INCOMING CALLING PARTY INTERNATIONAL NUMBER PREFIX, INCOMING CALLING PARTY UNKNOWN NUMBER PREFIX, INCOMING CALLING PARTY SUBSCRIBER NUMBER PREFIX, PHYSICAL LOCATION

Branch_0000, CMG 1 Phones, Central, region_0001, Disable, NULL, NULL, NULL, Intrn_MRGL-1_Volkswagen Intn., , NULL, -1, NULL, NULL, Default, NULL, NULL, NULL, Default, Default, Default, Default, NULL

mediaresourcegrouplist.csv

NAME, MEDIA RESOURCE GROUP 1, SORT ORDER 1

Intrn_MRGL-1_Volkswagen Intn., ,



- (注) インポート/エクスポートは、依存関係にあるエンティティをインポートする度に、2つのログファイルを生成します。最初のログファイルは最初のエンティティの挿入のステータスを示し、もう一方のログファイルは対応するエンティティの値によって、最初のエンティティが正常に更新されたかどうかを示します。

インポートまたはエクスポートでサポートされていない項目

次の項目は、インポートまたはエクスポートでサポートされません。

- [ダイヤルプランインストーラ (Dial Plan Installer)]
- [ルートプランレポート (Route Plan Report)]
- MOH Audio Source
- [固定 MOH 音源 (Fixed MOH Audio Source)]
- [MOH オーディオファイル管理 (MOH Audio File Management)]
- [Cisco ボイス メール ポート ウィザード (Cisco Voice Mail Port wizard)]
- [ファームウェア ロード情報 (Firmware load information)]
- ライセンス
- 発表

オーバーライドのみ

[インポート/エクスポート (Import/Export)]では、Cisco Unified Communications Manager データベースの以下のエンティティに対する挿入機能はサポートされません。これらのエンティティは、更新/オーバーライドのみ行えます。

- Cisco Unified CM
- LDAP システム (LDAP System)

- [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)]
- [サービス パラメータ (Service Parameter)]
- モビリティ設定
- アナウンサー/MOH サーバ : Cisco Unified Communications Manager サーバを作成すると、データベース トリガーが MOH サーバやアナウンサーなどのエンティティを作成します。この情報を TAR ファイルにエクスポートして、それを別の Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすると、システム トリガーが MOH サーバやアナウンサーなどのアイテムを作成します。[インポート/エクスポート (Import/Export)]は、既存の MOH サーバ (サーバアソシエーション/アナウンサー) の更新のみをサポートします。インポートする前に CSV ファイルに有効な関連付けが存在するように、TAR ファイルを編集できます。最初にサーバをインポートすることをお勧めします。その次に、作成した関連付けに基づいて、CSV ファイルを編集して、インポートしてオーバーライドを実行できます。
- [デバイスのデフォルト (Device Defaults)]
- クレデンシャル ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)
- 証明書 : Cisco Unified Communications Manager Administration から新規証明書を作成/アップロードできないため、[インポート/エクスポート (Import/Export)]は、既存の証明書の更新のみをサポートします。証明書の [キャッシュの有効期間 (Duration in Cache)]パラメータのみ、更新できます。
- セルフプロビジョニング

Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード

Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後にエンティティをインポートする場合は、次の点に注意してください。

- BAT は、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager 間のインポート/エクスポートのみをサポートします。Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後、ソース サーバとターゲット サーバの両方で同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager が使用されていることを確認してください。
- アップグレード前にソース サーバで実行されていた以前の Cisco Unified CallManager 4.x バージョンに該当するアプリケーション ユーザに関連付けられたユーザ グループの中には、ターゲット サーバで実行される Cisco Unified Communications Manager バージョンに該当しないものが含まれている可能性があります。このようなユーザグループのインポート トランザクションは失敗します。

インポート/エクスポートメニュー関連のトピック

- [設定データのエクスポート](#)
- [.tar ファイルの編集](#)
- [ログ ファイル](#)
- [オーバーライドのみ \(5 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード \(6 ページ\)](#)
- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード](#)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)
- [サーバからのファイルの削除](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。